



第52回

四万十町窪川ロードレース大会

開催!!



話題の広場 topics&report



▲各部門の優勝者

2月8日、第52回四万十町窪川ロードレース大会が開催されました。

高知県内から小中高・一般合わせて127人が出場し、四万十町松葉川コースを力走しました。朝から小雨がぱらつき、強い風も吹く中で絶好のコンディションとは言えないものの、ランナーは日頃の練習の成果を出し切りました。

■小学5・6年男子の部(2km)

順位	氏名	所属	学年	記録
1	林 優利	窪川小学校	6	7分14秒
2	公文 晴登	七里小学校	6	7分18秒
3	田村 諒優	田野々小学校	5	7分36秒

■中学1年男子の部(3km)

順位	氏名	所属	学年	記録
1	中内 泰斗	高岡中学校	1	9分55秒
2	武市 郁哉	香長中学校	1	10分 2秒
3	田中 風太	香長中学校	1	10分15秒
3	山本 風河	香長中学校	1	10分15秒

■中学2・3年男子の部(5km)

★=大会新記録

順位	氏名	所属	学年	記録
1	西本 楓	香長中学校	3	15分46秒★
2	岡村 健心	香長中学校	3	16分30秒
3	小松 史弥	香長中学校	2	16分45秒

■一般男子の部(10km)

順位	氏名	所属	年齢	記録
1	植田 和久	イッテQ	34	34分 4秒
2	武田 真幸	窪川陸上クラブ	29	37分56秒
3	井上 裕貴	高知FRC	25	39分44秒

■壮年男子の部(5km)

順位	氏名	所属	年齢	記録
1	西村 謙治	高知市教育委員会	48	17分39秒
2	中平 伸幸	窪川陸上クラブ	51	18分11秒
3	森光 和明	須崎市役所RC	46	20分35秒

■小学5・6年女子の部(2km)

順位	氏名	所属	学年	記録
1	宮地 桃	窪川小学校	6	7分42秒
2	岩川 侑加	吉良川小学校	6	7分56秒
3	廣田 芽育	窪川小学校	6	8分 7秒

■中学女子の部(3km)

順位	氏名	所属	学年	記録
1	澤本沙久羅	香長中学校	2	10分43秒
2	山下 美海	香長中学校	1	10分47秒
3	野村菜々美	香長中学校	3	10分52秒

■高校男子の部(10km)

順位	氏名	所属	学年	記録
1	竹村 俊斗	須崎工業高校	3	34分 3秒
2	田向 仁	山田高校	2	34分10秒
3	西森 泰我	宿毛工業高校	1	34分37秒

■高校女子の部(5km)

順位	氏名	所属	学年	記録
1	片岡 秀美	山田高校	1	17分50秒
2	小出 羅末	山田高校	2	20分49秒
3	宗圓 祐香	山田高校	1	20分57秒

■一般女子の部(5km)

順位	氏名	所属	年齢	記録
1	川村 由利	高知MMC	42	25分35秒

■壮年女子の部(5km)

順位	氏名	所属	年齢	記録
1	細川 佐恵	MJ高知920	61	27分 4秒
2	中平 五苗	四万十市	53	30分14秒

昭和中学校 最後の卒業式

3月13日、平成26年度をもって閉校する昭和中学校の卒業式が行われました。最後の卒業生となった4人は、たくさんの思い出が残る学び舎を巣立ちました。

4月1日から昭和中学校は十川中学校に統合され、新たに歩みだします。



◀左から最後の卒業生の山本優輝くん、岡田玲央奈さん、杉本愛美さん、竹本麻矢さん

季節の風景 4月

昭和の日

4月29日は、もともと昭和の時代に「天皇誕生日」という祝日だったということを、ご存知の方も多いと思います。それが、昭和64年（1989年）1月7日に昭和天皇が崩御されたことを受けて年号が平成に改まり、それまでの天皇誕生日としては存続できなくなり、祝日法の天皇誕生日に係る項を改正しなければならなくなりました。

孝明天皇、明治天皇、大正天皇の場合は崩御日が休日となる休日法が存続しましたが、昭和天皇の場合は現行の休日法により崩御日が休日とならないため、当初から誕生日を活かして「昭和記念日」など昭和に因んだ新祝日として存続させようという意見がありましたが、その案は見送られ、平成元年から「みどりの日」となりました。しかし、多くの国民の要望を受けて、平成17年に「国民の祝日に関する法律」が改正され、平成19年より「昭和の日」とすることになったのです。

一年に一度のこの日、昭和天皇とともにあった昭和の時代を改めて見つめ直してみるのもいいかもしれませんね。

29^{4月}
昭和の日

今月の



ロコミで広がった 昔ながらのどぶろく

昔からの作り方を、できる限り忠実に再現して「どぶろく」を作っている松原さん。どぶろく作りに必要な原材料は、米・米麴・水。米麴を作るために必要な種菌は取り寄せていますが、それ以外はすべて自家調達、自家生産。昔ながらの味がじわじわと評判を呼び、昨年は1500本を出荷するまでになりました。



▲仕込み中のどぶろくは、ぶくぶくと発酵中

松原さんがどぶろくを作り始めたのは2年前。許可を取得するまでには紆余曲折があり

「どぶろくは生き物ですから、同じやり方を徹底しても、その時々で出来上がりは変わります。それで良いんです。わかってくれる方が買ってくればそれで良いと思っています」おだやかに話

ました。国税局が視察に来た時は、その昔ながらの作り方に「これは売りもんにならんかもしれん」と言われました。その後、高知県工業技術センターで見てもらった時も「これはお勧めできませんね」と言われま

てくれる松原さん。土佐のおきやくで、高知県のどぶろくが堂に会った時に、「人のお客さんが「これは！これは元祖どぶろくですね！」と言ってくれた時は、本当にうれしかったそうです。

松原さんは、どぶろく作りを始める前からずつと、お味噌や塩麴を作っていました。「それらもすべて（きちんとした材料）で作ってきました。特に塩についてはたくさん勉強しました」常に学習を怠らない松原さんが作る「当たり前の逸品たち」は、どれもこれも絶品です。

もうひとつこっそり教えてくださいました。「実は私、ビール党なんですよ」ちよっぴりおちやめな松原さんです。



松原 香代さん
峰ノ上(59歳)